



## 第5回中央区多職種連携交流会 ～中央区医療機関病棟・地域医療連携部門担当者と 訪問看護師の交流会～

テーマ: 看看協働による切れ目のない入退院支援  
～協働に求められる相互理解と共通認識～

令和6年1月24日(水)14時～16時に兵庫県医師会館6階で開催しました。  
参加者34名。

神戸訪問看護ステーション所長 在宅看護専門看護師 二宮園美氏に  
「地域における生活者としての患者を支える」と題し、利用者宅の写真を  
見せていただきながら、訪問看護の実際についてお話していただきました。

講演のあとはグループで、退院後の患者像や  
生活の様子を見据え、入退院支援を連携・協働  
するためにできることや必要なことについて、意  
見交換を行いました。



参加者から「立場や組織の違う方と意見交換で  
きて退院後の生活のイメージが広がりました」  
「患者さんの生活に目を向ける機会となりました」「各職種の方々と話すこ  
とで、病院と在宅の情報共有の在り方について考えるきっかけとなりました」  
などのご意見をいただきました。コロナ禍でオンラインでの開催が続  
いていましたが、久しぶりの会場開催で、活気あふれる会となりました。



<参加者アンケート結果より(抜粋)>

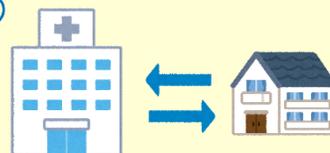
### 1. 病院⇄在宅間での情報共有や連携について工夫していること(自由記載)

- ・入院前からケアマネジャーや訪問看護との連携
- ・利用者の個性が伝わるようにサマリーを作成する
- ・サマリーはなるべく持参し直接会う
- ・サマリーだけに頼らず必要なことは、口頭でもお伝えしている
- ・なるべく入院中のADLは補足して詳しく記載するようにしている
- ・在宅での生活情報、キャラクターといった、ADLや病状以外も共有している
- ・ペーパーで伝わりそうにないこと、気になることは遠慮なく電話



### 2. 入退院支援において日々大切にしていること、取組んでいること(自由記載)

- ・病棟に入院前の生活が伝わるように情報提供している
- ・丁寧な対応、困難な事例の共有
- ・病院が必要かなと思う情報や家の様子を詳しく記入する
- ・入院中にできるだけ家の様子を聞くようにしている
- ・入院前のADL、在宅環境を確認し退院にあたっての課題を出すようにしている
- ・延命などご本人の最期をどうしたいかなど、決定できるような機会をもつ時間をとるようにしている
- ・その人らしく生活できるように、密に情報を伝えていけるようにしている
- ・患者の意向を聞き取ること
- ・患者さんがどうしたいのか、どうなりたいのかを中心に退院支援を行っている
- ・細かいことでも電話等で連携するようにしている



交流会にご参加の皆様から「楽しかった」「生の声がきけてよかった」「このような機会があればどんどん参加します」などのお声をいただきました。地域の医療職間や多職種間の連携や協働をすすめていく機会となるよう、令和6年度も交流会等を企画、開催していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



# 季節の変わり目はとくに体調に注意しましょう



季節の変わり目は、気圧の変化や昼夜の気温差が大きいことにより、自律神経のバランスが乱れやすく、春は出会いや別れなど生活環境の変化でストレスを感じやすくなり、身体面、精神面ともに不調になりやすい時期です。高齢者は、体温を調節する機能が低下しているため、寒暖差に適応することが難しくなっています。また、自覚症状に乏しく、自身の体調の変化を見逃してしまいがちです。利用者さん、支援者ともに体調の変化に気を配りましょう。



## こころの病気の初期サイン

参考：国立精神・神経医療研究センター 精神研究所 「知ることからはじめよう こころの情報サイト」 <https://kokoro.ncnp.go.jp/>

### <本人が気づきやすい変化>

- ・気分が沈む、憂うつ
- ・何をするのに元気が出ない
- ・イライラする、怒りっぽい
- ・胸がどきどきする、苦しい
- ・なかなか寝付けず、熟睡できない
- ・夜中になんども目が覚める など

### <周囲の人が気づきやすい変化>

- ・感情の変化が激しくなった
- ・表情が暗くなった
- ・不満やトラブルが増えた
- ・遅刻や休みが増えた
- ・ぼんやりしていることが多い
- ・ミスや物忘れが多い など



自律神経のバランスを崩さないために規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整えましょう。毎日の生活習慣を整えることは、こころの健康の基礎固めにもなります。気になる症状が続いたり、つらい状態が長引くときは、自己判断せず、かかりつけの医師や専門機関に相談しましょう。



## 医療介護サポートセンターって？



新年度をむかえあらためてご紹介します

神戸市には「医療介護サポートセンター」が各区1か所の合計9か所設置されています。医療、介護、福祉の関係者からの在宅医療に関する相談への対応や、各種の研修、市民の方への在宅医療・介護に関する普及啓発などの業務を行っています。地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで安心してらせる地域づくりを目指しています。ぜひ、日々の支援の中で、医療介護サポートセンターをご活用ください。

市民



相談

あんしんすこやかセンター  
(地域包括支援センター) など

区役所  
(あんしんすこやか係)

相談

支援

相談

連携

医療・介護関係者

医師  
歯科医師  
薬剤師  
ケアマネジャー  
病院(地域連携室等)  
訪問看護 など



相談

医療介護サポートセンター

- 在宅医療に関する相談窓口
- 地域の医療・介護資源の把握
- 多職種連携会議の開催
- 医療・介護関係者への研修
- 地域住民への普及啓発
- 退院調整への支援

コーディネーター

介護支援専門員  
(ケアマネジャー)の  
資格を持つ看護職・  
社会福祉士等



### 【相談について】

在宅医療と介護の連携推進を目的としていることから、医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談に対応しています。相談は無料です。(原則、市民から直接相談をお受けすることはできません。市民の相談窓口としては、引き続き、あんしんすこやかセンターが対応します)

医療介護サポートセンター  
ホームページのご案内

<https://kobe-iks.net/>



令和6年度も多職種の相互理解を深め、切れ目のない連携、スムーズな情報共有をすすめていくため、研修会等を開催いたします。詳細が決まりましたらホームページなどで皆様へご案内させていただきます。

各区サポートセンターの紹介やお知らせ、研修案内、活動報告等をご覧いただけます。ぜひ、ご活用ください

